

『失われた街』 模型復元プロジェクト

『失われた街』 模型復元プロジェクトは、神戸大学建築学科の槻橋修研究室が中心となって取り組んでいます。震災前の街や村を500分の1の縮尺で復元し、地域で育まれてきた街並みや環境、人々の暮らしの中で紡がれてきた記憶を保存・継承していくことが、プロジェクトの目的です。現在は岩手県の沿岸を含む約50地区の模型が制作されており、神戸大学の建築学生によるボランティアを中心として、地域の方々と協力しながら制作が進められてきました。

一般社団法人トナリノでは、岩手県大船渡市の3地区と岩手県陸前高田市の2地区の模型の管理・運営をしており、2015年度から「展示」「修繕」「アーカイブ」を大学生と協働で行ってまいりました。この町で生まれ育った方々が震災前の街並みを思い出して懐かしむことで、心の復興に繋がることを願っております。

ワークショップを開催しています

プログラム1

なぜこの町で生き続けるのか



陸前高田市=東日本大震災、ではない。

震災前から続いている「歴史～文化～産業」や、それに関わった「人」たちを紐解いていくと、数多くの魅力が大切に引き継がれてきた町であることに気がきます。

“陸前高田のファンを増やしたい”という想いを持った語り部によるお話、聞いてみませんか？

プログラム2

同じことを繰り返さないために今できること



プログラム1の後に、参加者同士の対話型ワークショップがセットになったプログラムです。災害時の状況を自分自身の問題としてイメージするトレーニングツール「目黒巻※」を行います。

東日本大震災での出来事を「知る」だけでなく、自分の身に災害が襲い掛かったときにどう行動するのか「考える」ことで、災害を自分事に行うことができるでしょう。

※防災を専門とする東京大学の目黒公郎教授が考案されたツール

※陸前高田市の模型限定
※詳細やお申込みはQRコードより



	プログラム1	プログラム2
定員	2～10名	2～10名
時間	50分	100分
料金	5,000円/回	プログラム1+1,500円/人



- 2 3 陸前高田市高田町・気仙町
- 4 5 大船渡市末崎町細浦
- 6 7 大船渡市大船渡町
- 8 9 気仙沼市鹿折
- 10 11 気仙沼市本吉町大沢

丹 震災前のけんか七夕まつりは、今よりもっと人が集まっていたんだ。ここの部落では、小学生が飾りをつくっていたんだよ。月山神社に集められて、寝泊まりしながらね。

カメラ お寺こは中学校でしよう。昔 37 年前とか親戚が監督してて、映画のロケ地になったの。その学研の映画だから学生、子どもたち対象に「バトンはVサイン」っていう映画を上映したね。

人 龍泉寺の本堂に向かう道にトンネルがあってね、その中で大きな声を出してた。反響するのが楽しくて、でも和尚さんにはよく思われてなかったかもね。あとはちょっとした傾斜もあってね、そこでそり滑りして遊んでたんだ。

船 長部村と今泉村がくっついて気仙村になって、今泉はその中心だったの。物資を運んで生計を立てていたから、町が細長く、川沿いにあるんですよね。

波 気仙川でシジミをとって味噌汁にしていたんだよ。もちろん、潮干狩りもしてたんだけど、普段は泳いで採ってたんだ。市外の友達もシジミを採っていたと言っても信じてくれなかったけど、あれは間違いなくシジミだったよ。

人 高校の部活の練習で、防潮堤をランニングしていたんだ。高校から防潮堤まで距離が離れているから、リンゴ畑を通過して近道なんかしてね。まさに、「われら青春！」という感じがして、懐かしいな。



模型制作年月日
高田町および気仙町今泉地区 2011年10月、2013年8月
気仙町長部地区 2019年10月

本事業による展示会 2022年8月 アバッセたかたにて

バス 高田交友館で、ドラえもん日本誕生を観に行った。風のまた三郎やラスト侍も上映していたよ。

眼鏡 家がこの近くでね、よく酔仙酒造の裏山を探検して遊んだものだ。桜祭りも近くで開かれてたっけ。


本 小学校へ登校する時、友達と集合してから朝市を突っ切り、走って登校していたなあ。市日では食べ物、お花、雑貨などが売られて賑わっていて、買い物しているじいちゃん、ばあちゃんに見送られて登校していたっけな


喇叭 町内運動会では小学生の人数が多かったから、同じ学年で一斉に走らされていたんだ。その順位によって出られる競技が変わるんだけど、3～4位は玉入れに、1～2位は選抜リレーに出てたんだ。


他のエピソードもご覧になりたい方


2015年度～2021年度に陸前高田市で開催した展示会で聞かせていただいたエピソードと、東日本大震災前から続いている歴史～文化～産業などの魅力を40名からインタビューした内容を冊子「たかたろ。～高田の人が高田を語る～」に掲載しています。陸前高田市と大船渡市の書店を中心に販売していますが、右記のQRコードからも購入可能です。





 クジャクを何羽かかかっている家があってね、珍しくて。昔仕事してる時に、ここに寄ってクジャクを見に行ってたの。動物園でしか見たことないような見事なクジャクだったよ。

 お寺の墓地で肝試しした。昔はみんな土葬なんで、亡くなった人を入れる白木のかごが本堂の裏の倉庫に置いてあって、そこまで行ってこいって言われたなあ。全然何も出なかったけどね。

 海のそばでバーベキューをやった。ときには肉だけでなくカレーとかタナゴとか釣ってそのまま焼いてたよ。
大船渡の軟式野球大会の後の打ち上げはここでバーベキューと飲み会って決まってたね。そこら辺を通る人を呼び止めてたんだ。

 昭和30年代より前……埋め立て地になる前は海パン一丁で海に飛び込んでた。夏休みに公民館でみんなで勉強していると「暑いな、泳ぐぞ！」って泳いでた。家にいるとあれやれこれやれうるさかったからな。

 俺が中学生の頃までは、陸前高田とか盛でやるような七夕祭りをやってた。みんなで山車を引っぱってたのね。昭和38、9年までだね。畑とかで悪さするような子がいて、学校に通報されて中止になったんだけどな。


 むかーしはね、細浦ってねえすごかったんですよ。船がいっぱい入ってくるとこだったから。それこそ、バーとかスナックとか飲み屋さんがいっぱいあったり、船員さんはいっぱい出入りしてたところだから。賑わってたの。





模型制作年月日 2020年3月 / 本事業による展示会 2021年8月 細浦公民館にて


500m

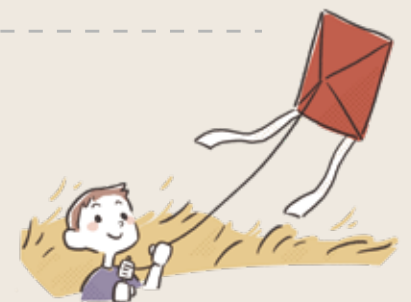
※昭和30年代以降に埋め立てられた土地


 近藤菓子店、船に大漁旗があると沖から入ってくる時にわかるから、私の母親がね、このお菓子屋さんとか酒屋さんから酒っことお菓子を積むんです。あぶら饅頭とか四方焼とかチョコレート饅頭とか、甘いもの好きでそればっか食べてたから虫歯になっちゃって。


 サンマ船が出るときに、吹奏楽やってたのでお見送りですよ。紙テープも引っ張った。親戚一同で記念写真も撮りましたね。


 この辺でもクジラが獲れて、「ロクロク」のカメラで撮ったんだ。ミンククジラ、マッコウクジラ……綾里沖とか基石沖とか金華山とかでも獲れたの。奄美大島でザトウクジラを獲ったんだけど、衝突して危うく地獄に行くところだった。


 麦畑で麦踏みと称して畑で凧揚げ！浜からの風が上がってくるんですよ。松林では新葉拾いをして学校に持って行ったね。





 学校が高台にあるから、坂が大変。私の子どもたちも、いやだと思いながら登っていたと思う。しかも風が強くて、運動会のお昼なんかお弁当に砂が入ってきてね。だからある時から、体育館で食べるようになった。

 陸前高田も含めた気仙郡の地域で、スポーツの大会をやった。一年に一回、陸前高田と交互に開催していて、大船渡でやる時は大船渡中のグラウンドを使っていた。

 魚市場に勤めていたので、帰ってくる頃には体中が魚のにおい。魚の差し入れも毎日のようにあったな。


 50年以上前は神社と貯水池しかない場所で、家なんか建っていなかった。大船渡小からあぜ道を通って近道して、神社まで行って遊んだ。ふざけて津波警報塔に登ろうとしたらちょうど時報が鳴って、大きな音でびっくりしちゃった。


 クルーズ船「飛鳥II」がよく停泊していた。他よりも大きい船で、何度も見に行った。


 昔、サンマが多く取れた時期は、たまにこの道にサンマが落ちていた。魚の保冷車が曲がる時に、積み荷がずれて落ちたんだと思う。昔のサンマは、サバみたいに大きかったんだよ。





模型制作年月日 2013年8月 / 本事業による展示会 2022年8月 おおふなポートにて


 戦後すぐ、みんながこの一帯で商売を始めた。お店が長屋のように連なってできた二階建ての建物になって、「中央マーケット」という場所になった。私のおじいさんも満州から引き揚げてきて、ここで商売をしていたよ。


 茶屋前の通りがよく栄えていて、おいしい居酒屋や洋食屋があった。映画館も、東映とか日活とか数件並んでいた。マイヤがあった場所にはもともと「千葉久」という、衣料品店よりもう少し大きいくらいの百貨店があってね、なんでも売っていたよ。


 花火大会は港が通行止めになるから、そこにみんなが集まって人でいっぱい。ビニールシートを広げて、マイヤで買ったお酒や食べ物を並べて花火見物した。


 本当はここに入っちゃいけないんだけど、友達と忍び込んで遊んでいた。何十年も前の、見張りがゆるい時代だからできたことだけどね。クラゲが浮いていたから、友達に体を押さえてもらって、身を乗り出して針金で釣っていた。


 マルハチ倉庫（神白水産倉庫）で働いて、海岸から船に乗った。船から降りたら、やよいさんの後ろにあった食堂でラーメンを食べてたよ。

 海岸線は水産加工場がたくさんあるから、バスで唐桑から鹿折に入った瞬間に、においがすごいすごい！魚くさいっていうんだか粕くさいっていうんだか。気仙沼さ来たな、っていう感じ。よそから来た人に「この辺のにおいはなんだ？」ってよく聞かれたね。

 ここがね、パーマやさんだったの。パーマをかけに行けば3、4時間くらい、今だったら1時間ちょっとでできるけど、半日くらいしゃべったりお茶飲んだりしてたなあ。

 ヤンマーディーゼルが飼っていた猿をよく見に行った。


 東日本大震災の津波で、大型漁船「第18共徳丸」と一緒に、私の家が流されたの。壊れずにそのまま流されたから、1階はだめだったけど2階はほとんどそのままだった。


 知り合いが東日本大震災の時、やすらぎの3階にいた3～4人をさらしで結んで、屋上まで持ち上げて助けたって聞いたね。





模型制作年月日 2011年7月 / 本事業による展示会 2022年3月 鹿折公民館にて

500m

 隣近所のばあちゃんたちが毎日おらいさ（私の家）に来て、たまり場になった。波板橋に向かうまでの道は散歩コースだから、「変わった花ですね、見せてもらっていいですか」って上がってくるわけよ。花が好きで変わったのを庭にいろいろ植えてたから、みんなそれを見ながらお茶のみして帰るの。欲しい人にはあげてたよ。

 この公園に桜並木があったの。うちの前にドドーンと桜の木があってねえ。ブランコやベンチ、トイレもあった。

 波板橋の両側でアサリがとれるから、堤防の階段を下がってとってたね。「工場が多いからここでとれたアサリ食べるのやだ」っていう人がいたり、とったのを海の沖さ持ってって1週間とかさらして持ってきたりっていう人もいた。

 桜の時期以外にもいろんな花が咲いたので、酒盛りしてた！あと、目の前の川を鮭が遡上していたので釣ってたね、本当はだめだけど……



海の仕事をしない人は石山で鉄鉱石を採ったの。船まで運ぶためにトロッコに積んで山道を降りた。大船渡の工場に売りに行ったんだよ。



浦祭りでは、「お魚がたくさんとれるように」と大漁を祈願して船が海をぐるぐる回ったんだよ。



毎年8月31日の志和神社に参家する日に、定置網をやっている人たちが海を挟んで提灯をかけた。



使わなくなった畑を小さな広場にして、町内運動会を開いていた。子どもだけでなく大人もみーんな参加して、親子3代リレーとか、伝言ゲーム大会なんかをやっていたなあ。



じーちゃんが海藻のノリを養殖していたから、1枚ずつ手で加工して四角い海苔にして漁協に売ってたの。好きな作業ではなかったけど、じーちゃんが張り切っていたから一緒になってね。イワシもいっぱい捕れたから、共同納屋があった。



自分の家が写った空撮写真を売りに、業者がたずねてきたことがある。その写真にたまたま自分まで写っていたからびっくり。ヤッケを着て、家の前の道路で一輪車を押しているところだった。その写真は今でも、我が家に飾ってあるよ。



大沢漁港までおにぎりを持って行って、まだ小さい孫の子守りをした。3人孫がいたから、前と後ろにおぶって、さらに乳母車も押して歩いていたね。



1月5日は加茂神社で五日堂祭もあって、旧年うるう年の翌年に加茂神社の大神様を神輿に移す。剣祓と呼ばれる弊で神輿に潮水を振りかける「潮垢離（しおこり）」をして御神威を新たにし、地域の人たちに見守っていただくんだよ。



模型制作年月日 2013年3月 / 本事業による展示会 2023年3月 大沢カフェ・大沢集会所にて



正月のお祭り「柴木まつり」は4年に1回の1月3日に開催している。伊勢神楽がお囃子を演奏しながら旧家の賀美家に向かって、その庭で、伊勢の神様にご神霊を山車に移すんだよ。打囃子は子どもたちの担当だった。加茂神社の神輿のお供である沢虎舞もあって、町屋敷が賑わった。伊勢神楽や沢虎舞が練り歩いた地域の田畑は豊作になると言われているの。



大雨が降ると川が氾濫するから避難するよう言われていた。実際、川が氾濫すると近くの道路は歩けないくらい水かさが増えてきた。家の縁の下まで水が入ってきたこともあったね。



かさ上げ工事で切り崩す前の山には、自分の家の畑があっけね。きゅうりやねぎなど色々な野菜を育てていた。



林業をやっている家は馬を飼っていたの。昭和の終わり頃までいたかなあ。馬が川で水遊びしている姿が可愛かった！



しいたけを露地栽培していた。日陰で雨の当たる場所でよく育つから、ここがよかったみたい。